

2019-07-30 JiPFA

第1回 畜産・家畜衛生分科会講演 帯広畜産大学 理事・副学長 井上 昇



帯広畜産大学

Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine

# 大学による国際協力の取組みと JICAの産官学連携への期待



2 飢餓をゼロに



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



15 陸の豊かさも守ろう



17 パートナーシップで目標を達成しよう



「**農場から食卓まで**」  
をスローガンにかかげ、  
「**食を支え、暮らしを守る**」  
人材を育成する。

## ■ 共同獣医学課程



北海道大学との共同により総合的な動物医科学教育を実践。国際レベルの先端教育と施設で、時代をリードする獣医師を育成する。

## ■ 畜産科学課程



フィールドから食卓まで農畜産の幅広い領域の知識と技術を身につけることで、日本および国際社会で活躍する人材を育成する。

## ■ 草地畜産専修（別科）

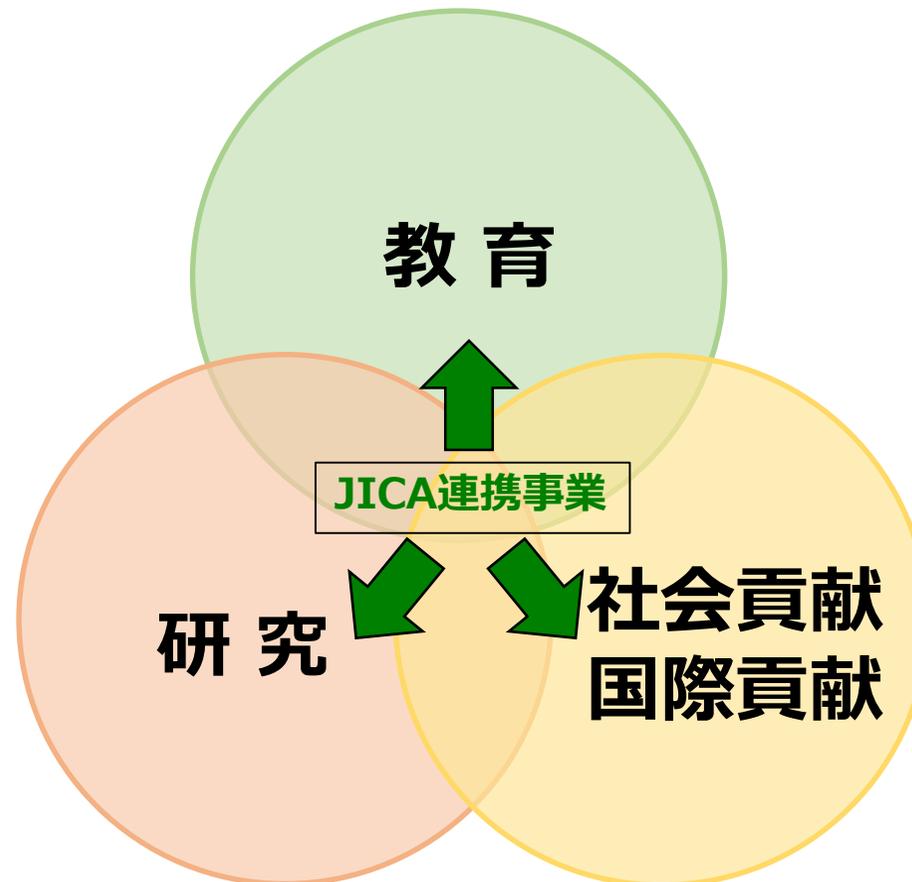
将来、農業への従事を希望する学生に対し、畜産・酪農を中心とした実践的教育を実施。地域農業の中核的なリーダーを育成する。

# 帯広畜産大学の役割とJICA連携事業の位置づけ

## 【大学の役割・使命】 教育基本法より抜粋

学術の中心として、

- ①高い教養と専門的能力を培う（**教育**）とともに、
- ②深く真理を探究して新たな知見を創造（**研究**）し、
- ③これらの成果を広く社会に提供（**社会貢献**）する



# 国境を越えた高度専門家教育と研究への貢献



平成14年度外務大臣表彰を受賞



平成19年度JICA理事長表彰を受賞

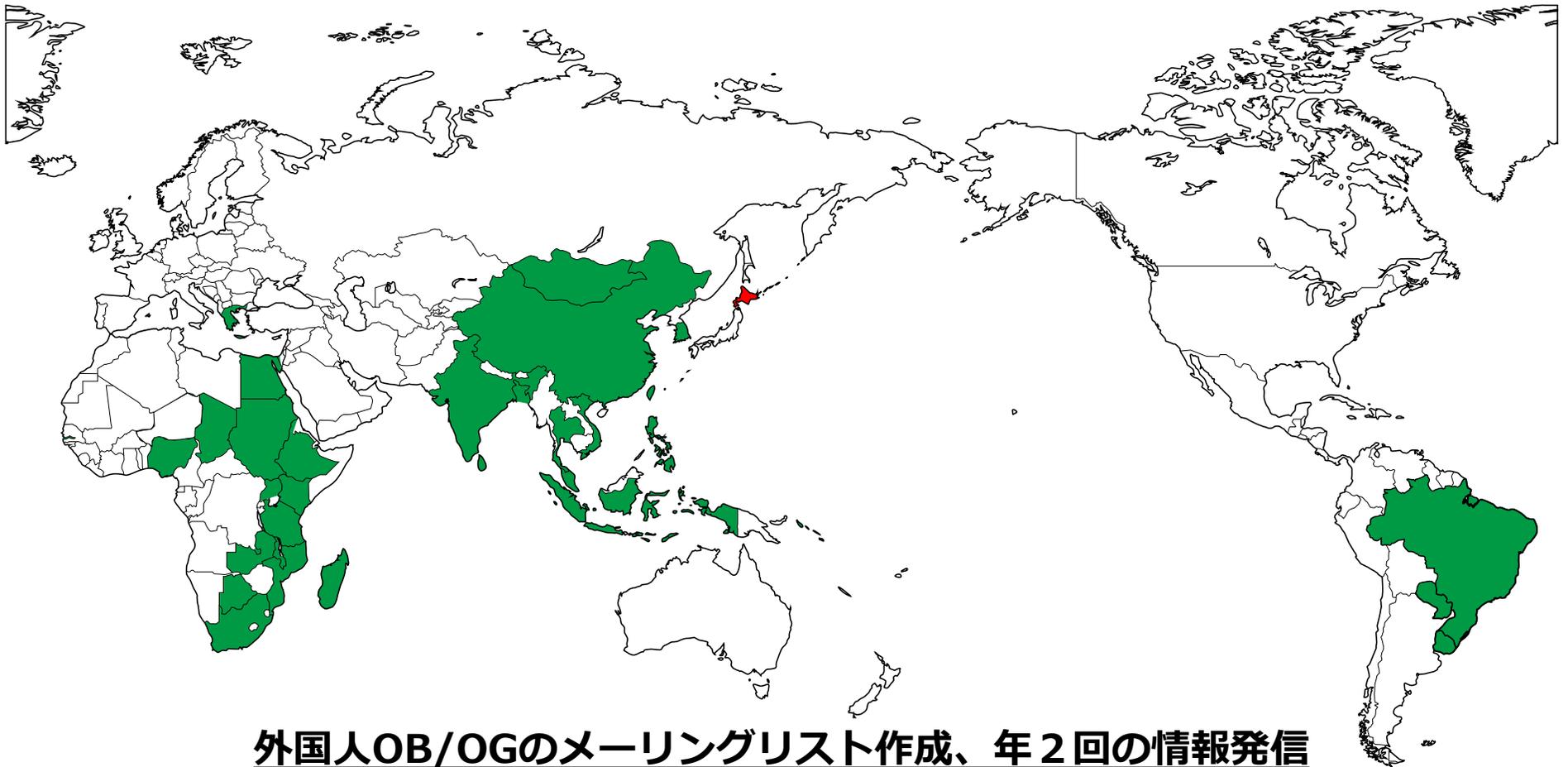
- ・ 青年海外協力隊（これまでに300名以上）
- ・ フィリピン酪農開発強化プロジェクト（短期派遣32名）2005～2008年
- ・ パラグアイ酪農技術向上支援（長期派遣14名・短期派遣44名）2012～2019年
- ・ JICA-AMED SATREPS（大学院生・若手研究者交流）2013～2018年

2010～2018年	小計	受入人数
・ 委託事業	47件	388名
・ コースリーダー	34件	256名
・ その他	33件	308名
<b>合計</b>	<b>114件</b>	<b>952名</b>



# 留学生出身国マップ 2014~2018

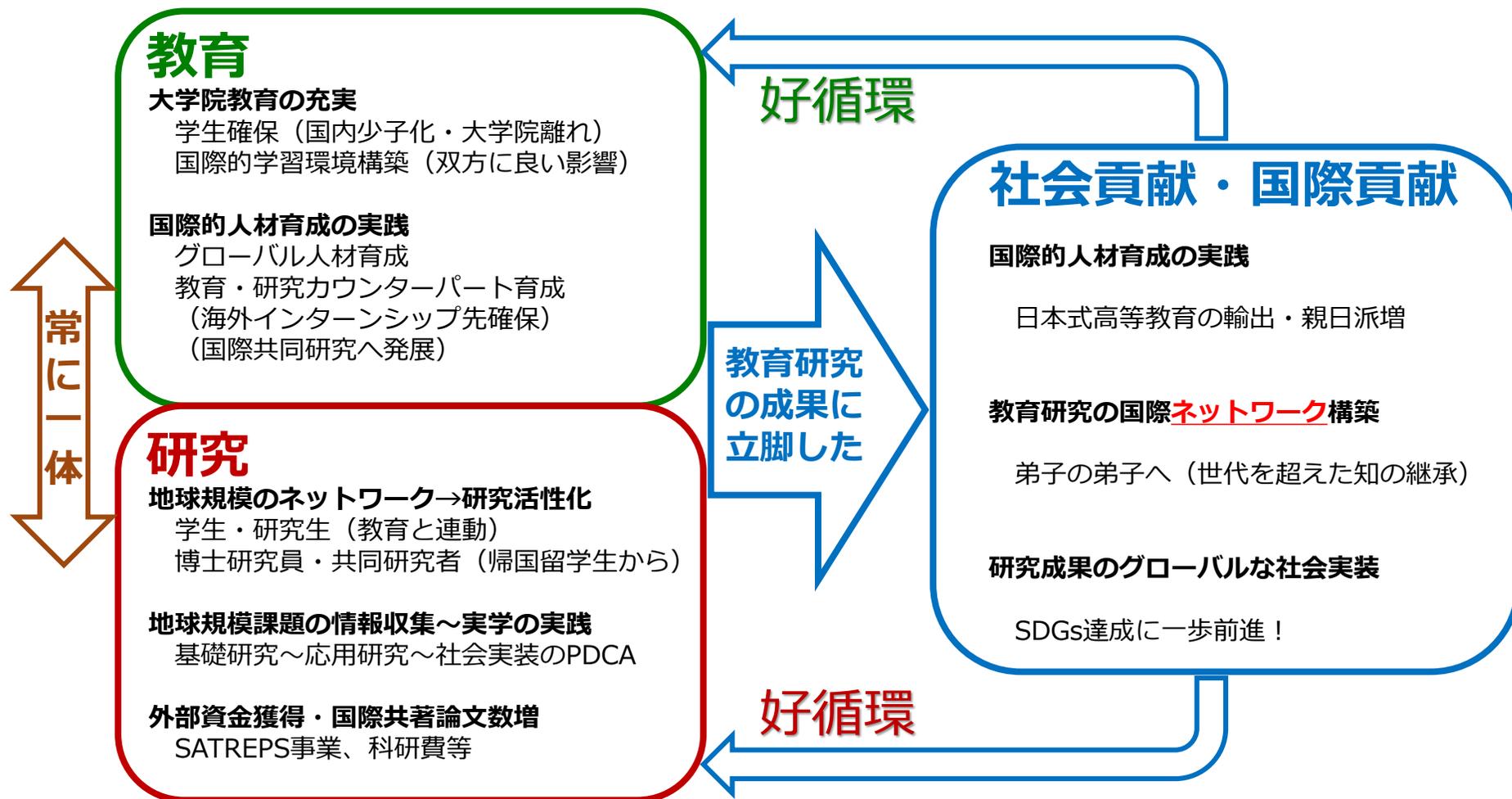
受入総数 = 137名 33カ国 (JICA研修生除く)



平成28年度国立大学法人評価では「注目すべき取組み」の評価を受けた

# JICA連携事業から本学が受けている恩恵

## JICAと産業界の連携ではどのような好循環がある？



# 帯広JICA連携事業「パラグアイ国小規模酪農家強化プロジェクト第2フェーズ」短期学生ボランティア派遣第2次隊は元気に活動中です！

2019-03-18 本学HPトピックスより抜粋



乳質検査を行う堀さん



搾乳手順を点検する堀さんと山田さん（左から）



酪農家への聞き取りを行う堀さん（白）、大崎さん（オレンジ）、松原さん（青）、山田さん（奥）



調査結果の報告と搾乳方法の指導

夜明け前にホテルを出発し、夜明けとともに始まる酪農家の朝搾乳に立ち会います。そこでは、1頭ごとに乳質検査や搾乳手順を点検し、併せて繁殖状況や給与飼料の調査をします。午後からは、前日に調査した農家を再訪問して、調査結果の報告や衛生的な搾乳方法を指導します。さらに、ホテルに戻って、当日の調査データの整理と報告書作りと、日々、精力的にJICAボランティアとしてのミッションに取り組んでいます。

# 研究面での好循環

共同利用・共同研究拠点 原虫病研究センターの成果事例



国際通用力を持つ獣医・農畜産分野における人材育成

機能強化  
食と動物の国際教育研究拠点の形成

中核組織



国際ネットワーク・研究コミュニティ  
元JICA研修員約200名及び大学院・研究生修了者約150名のOB/OGとのネットワーク強化

- 再教育プログラム運営による実践的国際共同研究の実施
- 国際研究集会・情報交換の実施
- 留学生・研究者の誘致

マダニバイオバンク整備とベクターバイオロジーの新展開

国内外のマダニとマダニ媒介感染症対策法の開発研究 (H29-33)

コスパ+機動力高  
原虫病に特化した目に見える国際共同研究拠点

学術論文の国際共著率  
H28 77編 (うち国際73編) : 94.8%  
H29 70編 (うち国際61編) : 87.1%

**SATREPS** 地球のために、未来のために

モンゴルにおける家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法開発 (H25-30)

感染症分野連携による研究の加速化

長崎大学熱帯医学研究所(熱研)  
Institute of Tropical Medicine NAGASAKI UNIVERSITY (NKKEN)

検査品質の国際標準化  
H28年度 ISO/IEC17025 認定取得



マダニ媒介原虫感染症の制圧に向けた国際共同研究拠点の構築 (H29-32)

国際共同研究拠点 [共同研究ラボ] 設置

- モンゴル国立獣医学研究所
- 中国上海獣医学研究所
- ウガンダマケレレ大学獣医学部



OIE  
OIEリファレンスラボラトリー (H19認定)  
H29~世界の研究者意見を集約  
国際標準家畜感染症予防・診断マニュアル  
改訂版作成をリード



畜産現場からの要請

クリプトスポリジウム原虫下痢症の検査診断体制を構築

成果有体物の情報発信



世界の第一人者となるため国際的に高い評価の得られる研究成果を発信

原虫病制圧対策の社会実装

実用的な診断・予防・治療法の開発と臨床現場での実施応用

トキソプラズマ感染とうつ症状の発症との関連性を解明

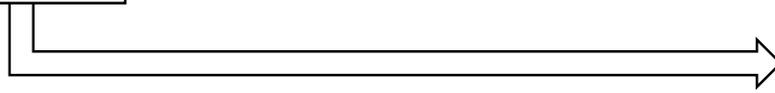
犬バベシア症  
新規血清診断法の開発と実用化

金属ナノ粒子の抗原虫効果

# JiPFAへの期待

## JiPFAの目的

産官学の**情報共有**と協働によるSDGs達成



### 共有すべき情報は何か？

国内外の産官学からのニーズ  
産官学のシーズ（人材・リソース等）  
関係者それぞれの課題や取組み  
関連分野の最新の動向・成果

### 情報共有に伴うリスクの管理も重要

知財、利益相反、個人情報

## JiPFAの役割

**グローバルな**専門人材ネットワークの構築

**グローバルな**産官学連携ネットワークの構築

SDGs達成に向け解決すべき地球規模課題の収集・共有

## JiPFAへの期待

優秀な国内外人材（専門家・学生・社員）の確保

国内外カウンターパート発掘の効率化

産官学それぞれの得意分野共有

新たな国際貢献事業・国際共同研究・国際ビジネス展開の羅針盤

Evidence Based Policy Making (EBPM) の基盤



近者說  
遠者來

論語



食を支え、くらしを守る。

**御清聴ありがとうございました**